

# 白神山地における森林ふれあい推進事業の展望について

東北森林管理局藤里森林センター ○緑化第二係長 濱田眞智子  
企画官 池端 覚

## 1. はじめに

藤里森林センターでは、白神山地世界遺産地域の秋田県側とその周辺地域レクリエーションの森など約10,500haを対象区域として活動しています。

遺産地域等の巡視や保全・管理活動は、動植物の生息現況の把握や林道・歩道の点検等を実施すると共に、現地の窓口として情報提供を行っています。

森林環境教育では、森林ふれあい推進事業や森林教室等を開催しています。参加者には、森林の働きや役割等の理解を深めてもらうため、ブナ林や天然秋田杉等を教材に、直接森林とふれあい、五感をフルに使うメニューで取り組んでいます。

さらに、学校や公共団体からの要請に基づいて、森林インストラクターの派遣も行っています。

国民参加の森林づくりは、森林を保全するための歩道整備や巨木の保護活動等、町やボランティア団体と一緒に取り組んでいます。また、最近ではブナに傷をつけるなどの悪質な行為が見られることから、入山マナーの啓発にも積極的に取り組んでいます。

こうした中で、昨年12月、「国有林野の管理経営に関する基本計画」が改正され、森林環境教育では、「森林の有する多面的な機能についての普及啓発の実施」や「フィールド等の情報提供に取り組む」としており、森林に対する国民の要請や国有林への期待に応えるため、積極的に取り組むこととしていて、当センターの役割がますます重要になってきています。

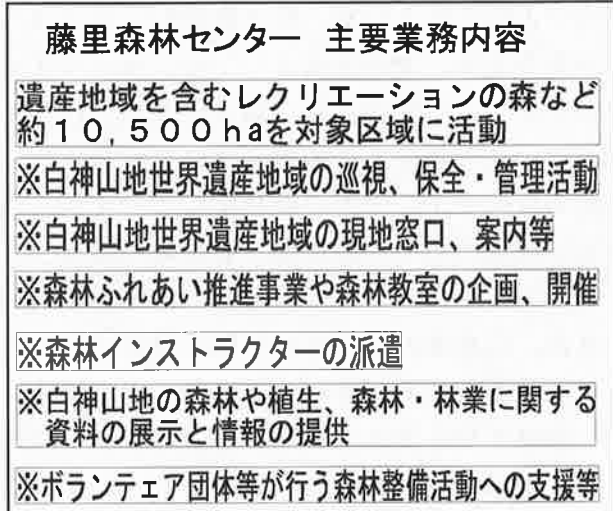


図-1 藤里森林センターの主要業務

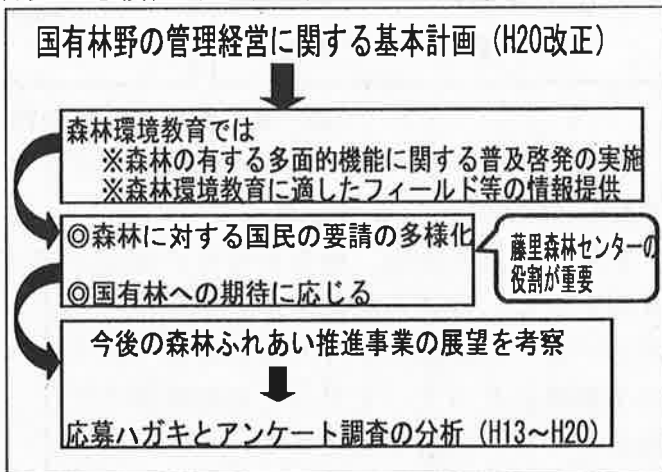


図-2 研究の背景

## 2. 研究方法

平成13年度から20年度まで8年間実施したイベントの応募ハガキと、参加者からのアンケート調査結果を基に、「白神山地における森林ふれあい推進事業の展望について」分析したので発表します。

### 3. 結果と考察

これまで年に7回程度実施しているイベントの応募状況ですが、8年間で、1,300名の募集に対し1,892名の応募があり、平均倍率が1.46倍となっています。実施内容は登山と森林浴に大別され、その7割が登山で占められていて、特に藤里駒ヶ岳に人気があります。その理由としては、登山口までのアクセスが悪いため、個人で登るには不安が多いことから、この機会に応募するものと考えられます。一方の森林浴についても、美しい自然の中での散策は、心が落ち着きリフレッシュできることから応募の倍率が1.22倍とこちらも人気があります。(図-3)

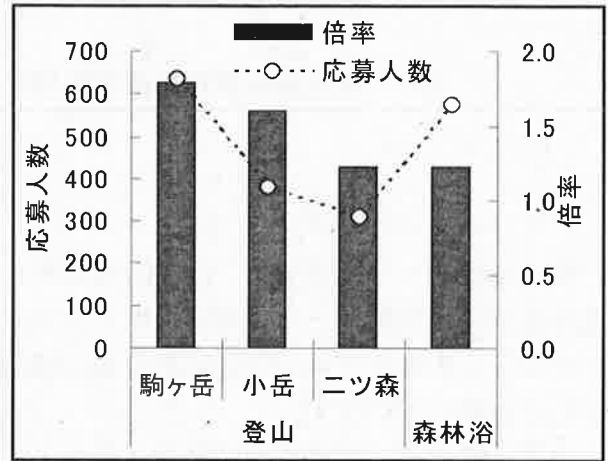


図-3 応募者数と箇所別ランキング

また、応募者の傾向としては5割以上が女性で、年代別に見ると50代、60代がともに4割程度を占め、合わせて8割になります。その理由として、手軽に自然が親しめること、森林を歩き安らぎを求めるといった、中高年を中心とした登山や森林浴ブームが傾向として表れています。(図-4)

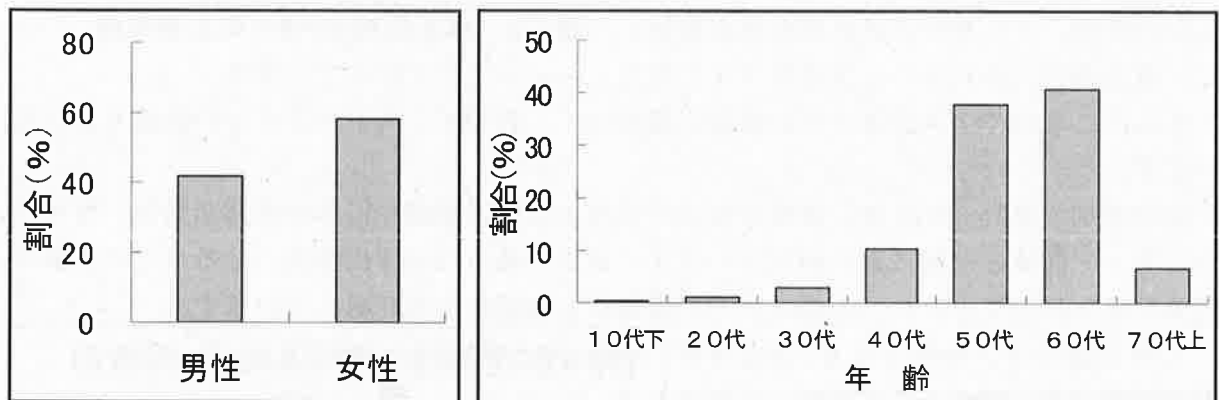


図-4 参加者の性別比、年齢

次は、参加者1,026名から回収したアンケート調査の分析ですが、8年間で48回実施し、回収率92%でした。

参加者の居住地は、秋田市やその周辺が5割を占め、次に県北地区が3割以上となっています。県南と県外の参加者はそれぞれ1割弱となっています。この結果から、秋田市やその周辺で生活している人にとっては、自然や森林に触れるその心地よさと現代におけるストレスから解放されたいという気持ちが、自然の中での安らぎや心身の解放、健康の増進を求めている表れだと思います。(図-5)

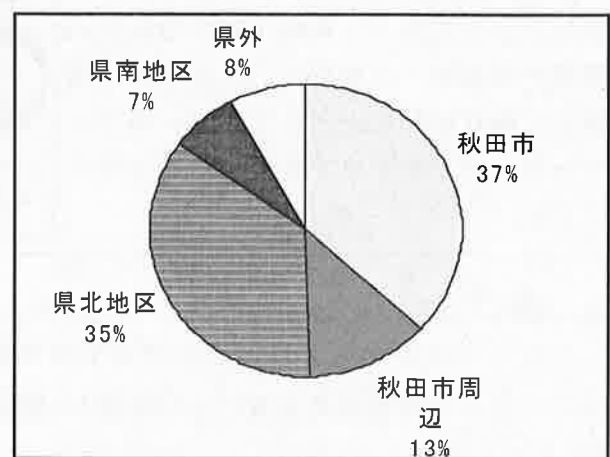


図-5 参加者の居住地

参加者の職業ですが、主婦が32%を占め、次に会社員、無職となっており、時間にある程度余裕のある主婦と無職を合わせると、参加者の44%を占めていることがわかりました。(図-6)

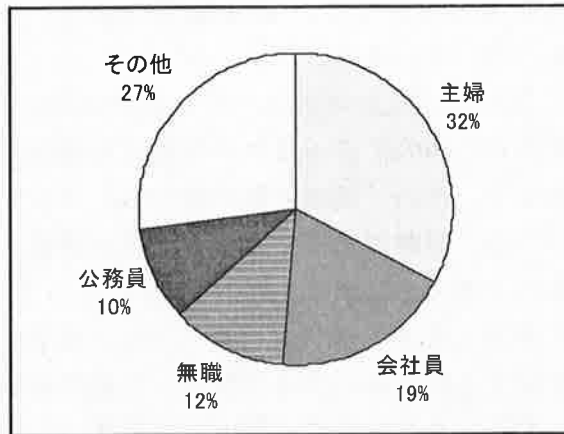


図-6 参加者の職業

これまでの参加回数について、参加したことが「ある」と答えたリピーターが37%を占めるというおもしろい結果が出ました。その4割弱が、参加後すぐに次の申し込みをしていることがわかりました。このようにリピーターが多いのは、イベントに対する期待の表れと考えています。(図-7)

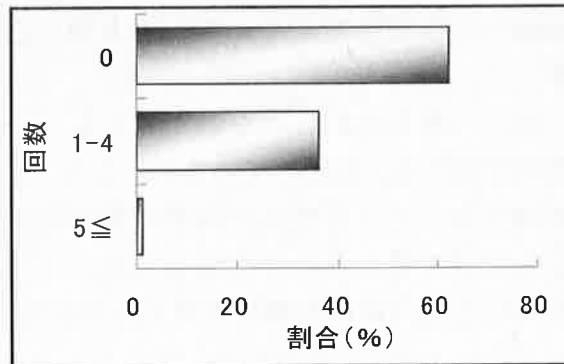


図-7 これまでの参加回数

イベントの情報源ですが、「新聞」が67%とダントツとなっています。また、「インターネット」の割合が、緩やかに増加しています。このことは、ホームページにイベントの案内を掲載したり、参加者へ写真を送付する際の礼状にアドレスを載せ、ホームページを見てもらえるよう小さな積み重ねの結果が、インターネットによる情報の普及に繋がっていると思います。(図-8) (図-9)

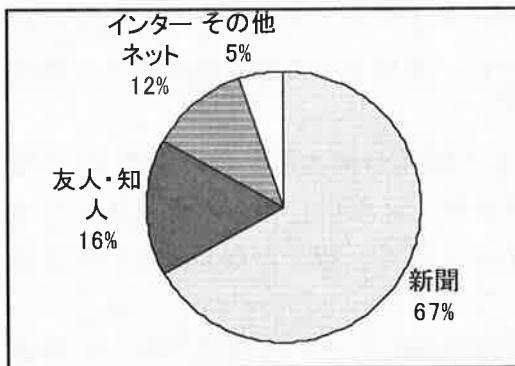


図-8 イベントの情報源(1)

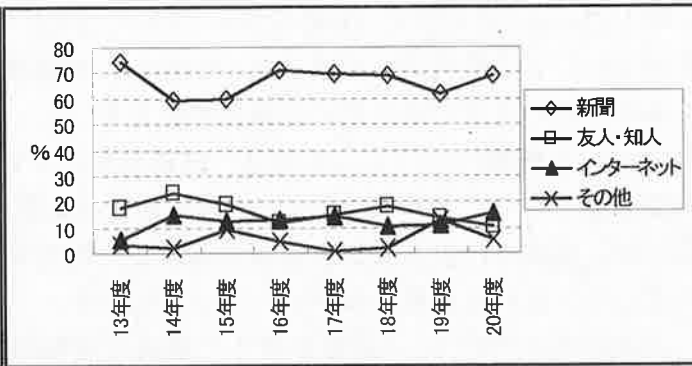


図-9 イベントの情報源(2)

開催日は何時がよいかについては、土日・祝日が56%、平日が12%、どちらでもよいが32%という結果が出ました。このことは、仕事を持っている人が「土日・祝日」を望み、主婦や無職、県外からの参加者が「どちらでもよい」という傾向でした。今年度、初めての試みとして、平日に「藤里駒ヶ岳登山」を企画したところ、20人の定員に対し69人の応募で、3.45倍となり想定外の結果となりました。(図-10)

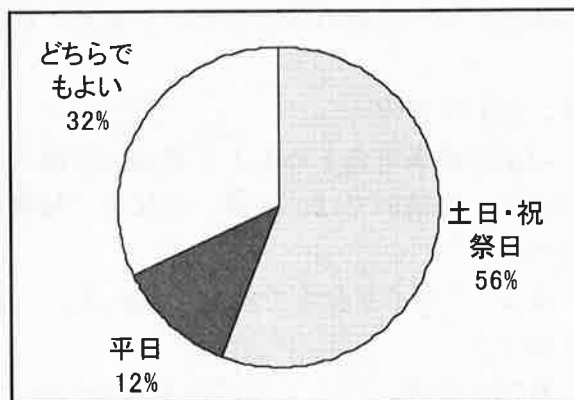


図-10 開催日は何時がよいか

参加の理由では、「設定箇所の魅力」が45%となっています。

「白神山地」のネームバリューが大きいこと、参加者の体力に合ったコース設定が理由と思われます。次の「実施主体の確かさ」26%については、経験に基づくガイド内容が評価されたものと考えられます。(図-11)

参加を決めた条件については、「ガイド付きで安全に回れる」が42%で、これは自然に対し興味はあるものの、個人では森林へ入るのが不安であることから、ガイド付きの登山や森林浴への参加を望んでいるものと考えられます。

次に「知らないことを教えてもらう」、「短時間で回れる」となっています。このことは、無理のないプログラムで自然や森林を知り尽くして様々なことを教えてもらえる、ガイド付きへの期待の表れと考えられます。(図-12)

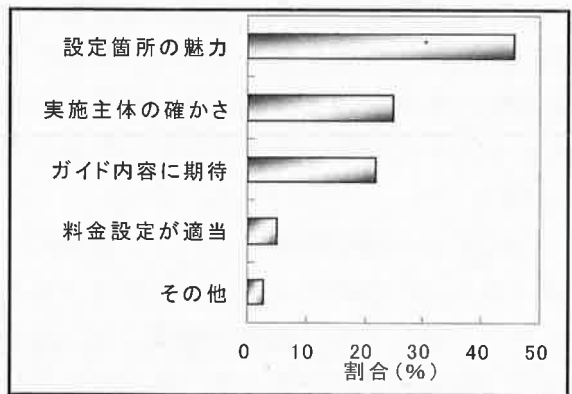


図-11 参加の理由

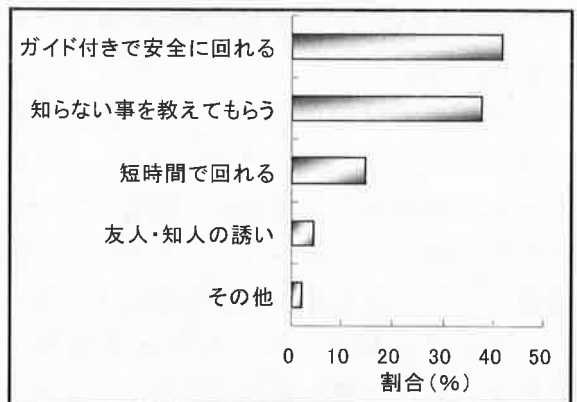


図-12 参加を決めた条件

参加者からの主な意見について紹介します。

申し込みについては、往復ハガキで行っていますが、「インターネットからも受け付けてほしい」との意見がありました。しかし、現段階では、迷惑メール等が多くなる可能性もあり現状のままで行きたいと考えています。

イベント開催について、当初は、班編成なしで数名の職員が案内をしていたので、「話が聞き取りにくく集中できない」「列の最後尾は説明が聞こえない」という意見がありましたが、現在では少人数の班編成に改善し「説明がわかり易く、細やかな気配りが行き届いている」という意見を多くいただいています。

道路状況について、「道路が狭くて悪路で運転に自信がない」という意見があり、林道を管轄している米代西部森林管理署と連携を図り、よりよい状態で実施できるよう、さらに協力しながら進めて行きたいと考えています。

#### 4. おわりに

以上の結果をまとめると、登山への傾向は高まっていて50代、60代の中高年の女性が多く、職業別では、主婦、会社員、無職の人で大半を占め、リピーターも増え続けています。

また、「ガイド付きで安全に回れる」「知らないことを教えてもらう」と回答した人が8割です。

参加の動機についても「設定箇所の魅力」や「実施主体の確かさ」、「ガイド内容に期待」が9割を占めています。

このようなことから、無理のない行程で安全な登山プログラムの企画と、平日でも参加できる企画、さらにリピーターや初めての参加者にも満足していただくために、ガイド内容の充実とそれに応えるガイドの育成など、様々な取り組みが必要です。

また、参加者は秋田市やその周辺と秋田県北部に集中しており、秋田県南部や県外からも参加し易いような工夫を加え、一人でも多くの人に参加出来るようなPRも必要です。

そのためにも、植物の開花時とタイムリーな開催時期の設定、各種研修等への参加や外部講師の依頼、局署等の協力依頼とインターネットの有効活用などPRの工夫が考えられます。(図-13)

今後も安全を最優先し、森林ふれあい推進事業をとおして、白神山地のすばらしさや保全・管理の必要性、さらには森林・林業の重要性など、普及啓発に取り組んでいきたいと考えています。

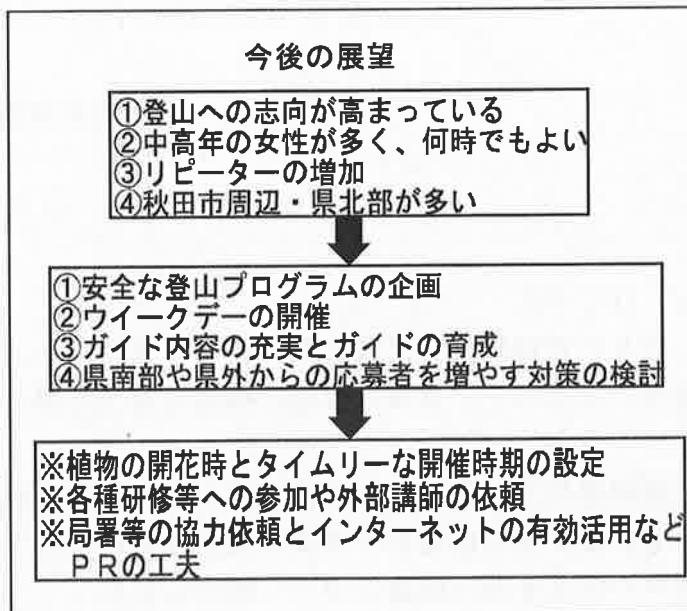


図-13 今後の展望



写真(1)

写真(2)